安芸平野の風景を巡る

―「骨格」を介して時空を体感する 3 つの安芸平野美術館―

1250098　竹下 武蔵
指導教員　渡辺 菊眞
高知工科大学　システム工学群　建築・都市デザイン専攻

1. 設計の背景

1-1 安芸平野の概要

安芸平野は高知県東部の安芸市にある安芸川下流部に形成された低地で、四国山地を背に、南は土佐湾、東は安芸川に囲まれている。平野北部には条里線が残る田園が広がり、平野の中心には安芸城跡の城山と伝統的建造物群の土居廓中がある。平野南部では、かつて回船業で栄えた安芸浦と、国道沿いの市街地が形成されている。

図 1 土居廓中

図 2 国道沿いの市街地

1-2 安芸平野の「骨格」

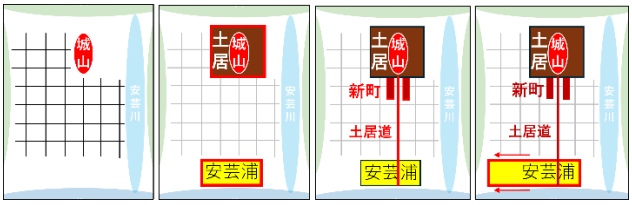
「骨格」は大きく都市骨格と自然骨格に分けられる。

① 都市骨格

Ⅰ 都市骨格と変遷

安芸平野の都市骨格は以下のように形成される。

1) 古代に安芸平野北側で条里線が引かれる。
2) 中世には平野の北側に安芸城城下町の土居、南側に回船業で栄えた安芸浦が形成される。
3) 南北の都市は条理線を基にした土居道で結ばれ、土居側の土居道沿いには新町が形成される。
4) 近世には安芸浦がさらに繁栄し、西へ拡大する。



1) 古代　2) 中世Ⅰ　3) 中世Ⅱ　4) 近世

図 3 都市骨格の変遷

Ⅱ 都市骨格と条理グリッド

安芸浦のある南側には条里線が引かれていなかったとされるが、安芸浦に仮の条里線を引くと、明らかにそれを基にしたグリッドが見られた。以下の図で示す。

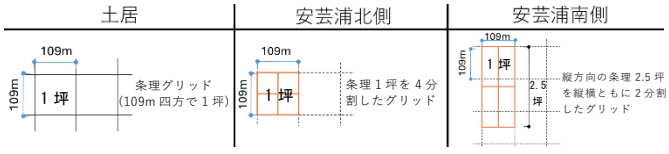


図 4 各地点の条理線を基にしたグリッド

これらから、安芸平野の都市骨格は条理グリッドを基に構成されたと言える。

② 自然骨格

南に土佐湾、北と東西に妙見山や四国山地などの山々が平野を囲んでおり、平野の東側には安芸川が流れている。南に開けた平野では古代から現在まで田畑として利用されている。これらは古くから平野に住む人々の生活とともにある揺るがない自然の骨格である。

図 5 安芸平野の自然骨格

（左上：平野を囲む山々、右上：平野の開け、左下：安芸川、右下：土佐湾）

1-3 安芸平野の現状

近代以降、特に第二次世界大戦後、国道沿いの市街地が急速に拡大し、それまで見えていた安芸平野の「骨格」が見えづらくなっている。このままでは安芸平野の特徴的な構成とその歴史が忘れ去られてしまう。風景を巡る中で、見えづらくなった「骨格」を改めて知覚し、それを現在の風景に重ねることで、安芸平野の時空を魅力的に体感できるのではないか。

2. 設計の目的

安芸平野の風景を巡りながら平野の「骨格」を知覚し、風景に宿る時空を感じられる美術館を設計する。

3. 設計の指針

A. 配置計画の指針

A-①点在配置型の美術館で都市骨格を体感する。
A-②点在する美術館を巡り、自然骨格を垣間見る。

B. 美術館設計の指針

B-①都市骨格を体感する空間を設ける。
B-②自然骨格をより魅力的に体感する空間を設ける。

Tour of the Aki Plain Scenery
-Aki Plain Museums to experience time-space through the “basis” of Aki Plain-

Musashi Takeshita

C. 巡回経路設定の指針

「骨格」と時空を体感する巡回経路を定める。

4. 設計の内容

A. 配置設計の内容

A-① 都市骨格を体感する点在配置型の美術館

都市骨格である土居道沿いに美術館を点在させる。点在位置として、以下に示す近世に形成された都市の境界上に美術館を設置する。

1) 安芸浦北端
2) 安芸浦南端
3) 新町南端

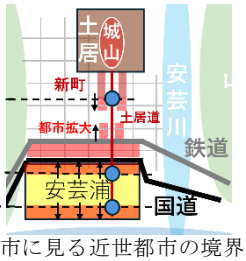


図 6 現代の都市に見る近世都市の境界

美術館が建つ位置によって、かつての都市骨格の境界を体感させる。また、境界間を歩くことで、都市の幅や土居と安芸浦の距離を体感させる。さらに、土居道の終着点として、土居廓中までつながる。

A-② 点在する美術館を巡る中で垣間見る自然骨格

土居道沿いに 3 つの美術館を点在させることで、それらを巡って「骨格」を認識しながら、平野を囲む山々、平野の開けなどの自然骨格を垣間見る。

B. 美術館設計の内容

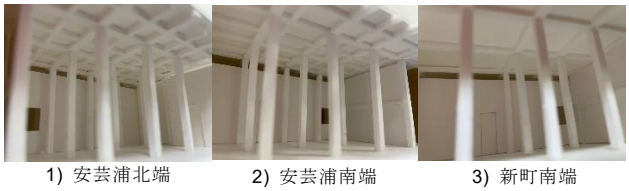
B-① 都市骨格を体感する空間

Ⅰ 都市骨格と変遷を知る資料展示室

中間階に展示室を設け、各境界地点周辺における絵図や古地図、明治から現代までの写真を展示する。

Ⅱ 条里グリッドのエントランスと階段室

最下階のエントランスと各階をつなぐ階段室では、各境界地点周辺における条理線を基にしたグリッドを柱と梁で可視化する。



1) 安芸浦北端　2) 安芸浦南端　3) 新町南端

図 7 各境界地点のエントランス

B-② 自然骨格をより魅力的に体感する空間

最上階にて、かつて各境界地点で見えたであろう自然骨格を魅力的に体感する空間を設ける。

1) 安芸浦北端―平野を囲む山々

平野を囲む山々をコの字型に切り取る開口が一気に見えることで、囲まれていることの体感を強化する。

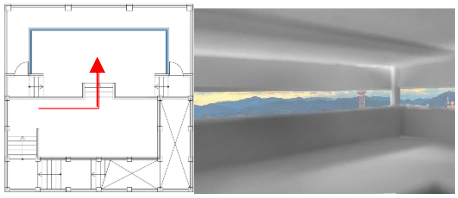


図 8 平野を囲む山々を体感する空間（平面図と模型写真）

2) 安芸浦南端―土佐湾

水平窓の先端から徐々に絵巻物が広がっていくように土佐湾が現れ、水平の広がりをより体感させる。

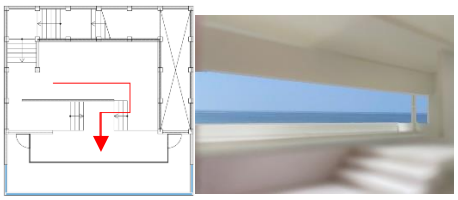


図 9 土佐湾を体感する空間（平面図と模型写真）

3) 新町南端―平野の開け

縦長の開口から視線が空へ抜け、その開口を出ると、空が横に広がり、平野の開けを感じさせる。

図 10 平野の開けを体感する空間（平面図と模型写真）

C. 巡回経路設定の内容

最初に安芸浦側の土居道を往復し、最後に土居側の土居道を往復する。

往路では美術館へ意識が向かうが、美術館で「骨格」を体感した後の復路では、美術館が都市骨格の境界を示すオブジェとなり、現在の風景に「骨格」が重なる。土居道を巡り、過去に形成された「骨格」を現在の風景に重ねて、安芸平野の時空を体感する。

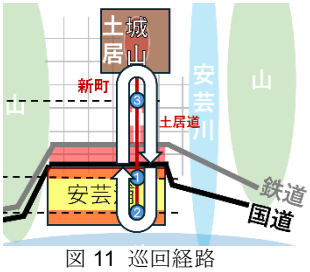


図 11 巡回経路

5. まとめ

3 つの美術館を通して安芸平野の風景を巡ることで安芸平野の「骨格」と時空を体感する魅力的な体験を提供できた。この体験が今後も変わり続ける安芸平野の中で揺るがない「骨格」として体感され続けることを願う。

6. 参考文献

1) 安芸市史概説篇
2) 安芸市史歴史篇
3) 安芸市史民俗篇
4) 安芸市土居廓中
5) 地形図に歴史を読む 第四集
6) 高知の研究 2 古代・中世編
7) 戦国城下町の研究
8) 描かれた土佐の浦々　新収蔵庫絵図展
9) 目で見る安芸・室戸・香南・香美の 100 年
10) 建築設計資料 13 美術館
11) 建築設計資料 49 美術館 2
12) 建築設計資料 102 美術館 3